

郡司農林水産副大臣の海外出張の結果概要について
(ケアンズ・グループ閣僚会合への出席等)

平成22年4月
農林水産省

郡司農林水産副大臣は、4月18日(日)から23日(金)にかけて、ウルグアイのプンタ・デル・エステに出張し、ケアンズ・グループ閣僚会合に特別ゲストとして参加するとともに、関係者と意見交換を行ったところ、概要は以下のとおり。

1. ケアンズ・グループ閣僚会合（19日（月）及び20日（火））

(1) 出席国

- ケアンズ・グループ加盟国： 豪州(議長国)、ウルグアイ(ホスト国)、ブラジル、カナダ、ニュージーランド、南アフリカなど、計19か国
(ケアンズ・グループとは、農産物輸出国により構成される交渉グループ。)
- 特別ゲスト： 我が国、米国、EU、エジプト、メキシコ、WTO(ラミー事務局長)

(2) ケアンズ・グループ閣僚と特別ゲストとの意見交換のセッション（20日（火））

- WTOドーハ・ラウンドの早期妥結に向けた今後の交渉の進め方等について、意見交換。
- 郡司副大臣より、
 - ・ 農業交渉については、「多様な農業の共存」という基本理念の下、各国のセンシティブティに配慮した貿易ルールづくりが行われるべき、
 - ・ 今後の交渉の進め方については、①これまでの成果(現在の議長テキスト)を尊重して、これに基づき交渉を続けるべき、②事務レベルでの作業の余地が残されてい

る論点について、実質的な議論を着実に深化させるべき

こと等を主張するとともに、

- ・ 本年10月に我が国にて開催されるAPEC食料安全保障担当大臣会合について、関係各国の担当閣僚の出席を呼びかけ。

○ 各国ゲストの発言を踏まえ、議長であるクリーン豪州貿易大臣より以下のとおり取りまとめ。

- ・ ケアンズ・グループとゲスト国(日本、米国)は、各国間の立場の違いを埋めるための作業や、分野横断的な議論を通じ、交渉の前進を図ることの重要性を共有した。

2. 関係者との意見交換（20日（火）及び21日（水））

(1) リッツ農務・農産食品大臣（カナダ）

日・カナダ農業対話、APEC食料安全保障担当大臣会合、カナダ産牛肉輸入問題等について意見交換。

(2) アゲレ農牧水産大臣（ウルグアイ）

日ウルグアイ間の農業協力、動物検疫について意見交換。

(3) ヴァイエスWTOルール交渉議長（在ジュネーブのウルグアイ大使）

漁業補助金に関するルール交渉の進め方について意見交換。

以上のほか、閣僚会合の合間を利用して、以下の閣僚等と意見交換。

WTO:ラミー事務局長、豪州:クリーン貿易大臣、NZ:グローサー貿易大臣

※1 当初予定していたウォーカーWTO農業交渉議長との意見交換は、アイスランドの火山噴火の影響により同議長が本会合に出席できなくなったため、取り止め。

※2 このほか、在ウルグアイ日系人（稲作農家等）と意見交換を実施。

(了)